

社会資本総合整備計画

社会資本整備総合交付金

令和05年01月26日

計画の名称	八戸市中心拠点界限地区都市再生整備計画													
計画の期間	令和05年度 ～ 令和09年度（5年間）										重点配分対象の該当	○		
交付対象	八戸市													
計画の目標	大目標：居心地が良く歩いて楽しく、人々の活動で賑わう、魅力あるまちをつくる													
	目標1：街路空間をひと中心のストリートに転換するとともに、誰もが憩うことのできる空間を形成する													
	目標2：ウォーカブルな空間とオープンスペース、さらに既存の施設を組み合わせた歩行動線を形成する													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		666	A	666	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R1		R9
1	国道340号（三日町・十三日町区間）の8地点における平日・休日の1時間あたりの平均歩行者通行量を3,130人/時（R1）から3,500人/時（R9）に増加。			
	国道340号（三日町・十三日町区間）における歩行者通行量	3130人/時	人/時	3500人/時
	国道340号（三日町・十三日町区間）における歩行者通行量＝（R1年度実測値）＋（事業実施による波及効果加算値）			
2	旧柏崎小学校跡地広場前の地点における平日・休日の1時間あたりの平均歩行者通行量を15人/時（R4）から44人/時（R9）に増加。			
	旧柏崎小学校跡地広場前における歩行者通行量	15人/時	人/時	44人/時
	旧柏崎小学校跡地広場前における歩行者通行量＝（R4年度実測値）＋（事業実施による波及効果加算値）			
3	アンケート調査で中心市街地における施策に対し満足していると回答した割合を42.9%（R4）から46.7%（R9）に増加。			
	中心市街地における施策に対し満足していると回答した割合	43%	%	47%
	中心市街地における施策に対し満足していると回答した割合＝（R4年度実測値）＋（事業実施による波及効果加算値）			
4	国道340号の標準値番号：八戸5-5（八戸市三日町4番1）の地価公示価格の下落を抑制・現状を維持。			
	国道340号の標準値番号：八戸5-5（八戸市三日町4番1）の地価公示価格	131000円/㎡	円/㎡	131000円/㎡
	地価公示価格			

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

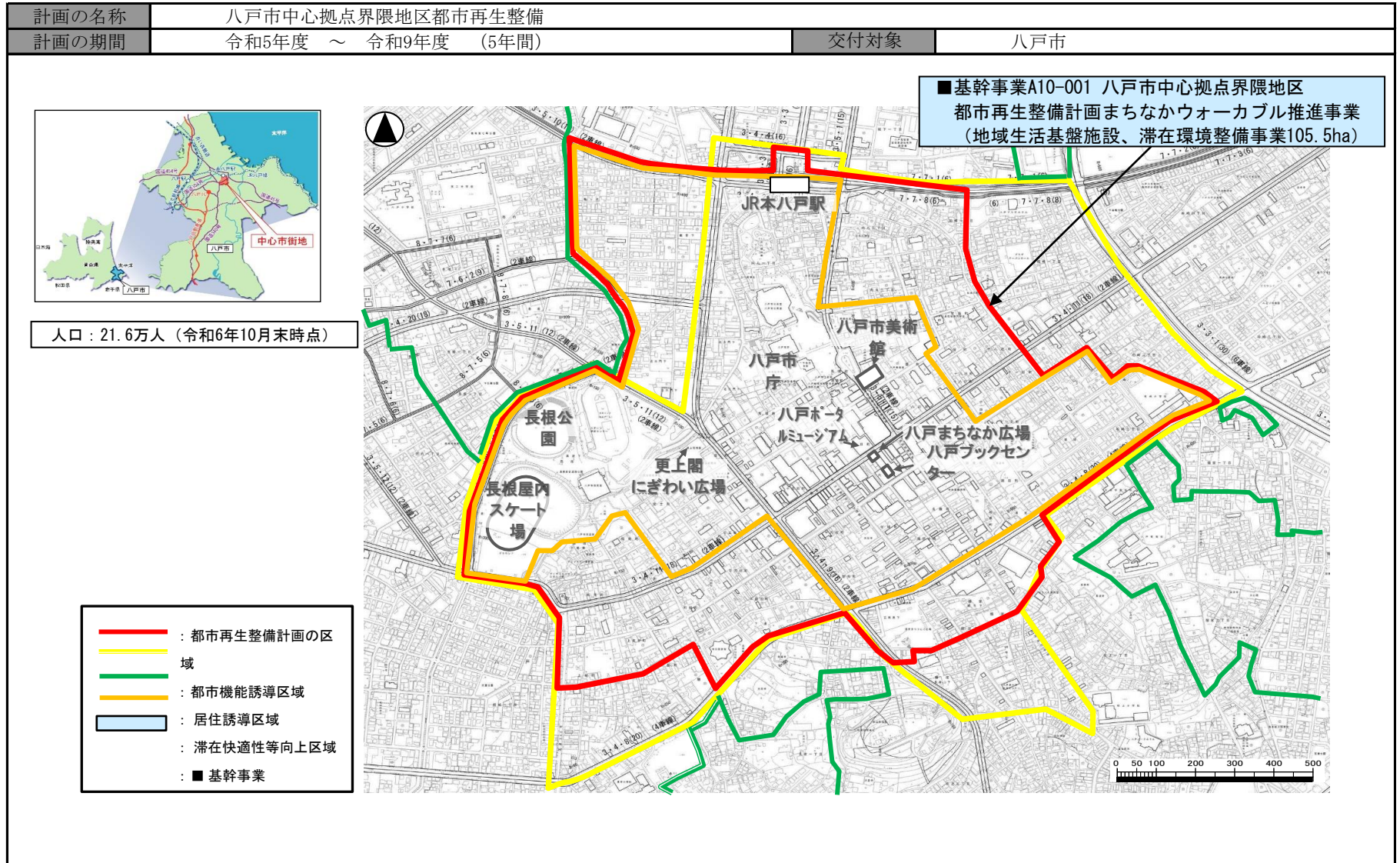
A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	八戸市	直接	八戸市	－	－	八戸市中心拠点界限地区 都市再生整備計画 ま ちなかウォークブル推進 事業	地域生活基盤施設、滞在環境 整備事業（105.5ha）	八戸市	■	■	■	■	■	666		－
											小計						666		
											合計						666		

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	R05				
配分額 (a)	25				
計画別流用増△減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	25				
前年度からの繰越額 (d)	0				
支払済額 (e)	25				
翌年度繰越額 (f)	0				
うち未契約繰越額(g)	0				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0				
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

(参考図面)



事前評価チェックシート

計画の名称： 八戸市中心拠点界限地区都市再生整備計画

事前評価	チェック欄
I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等 1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等 2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性	
②地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性	
②地域の課題への対応 2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
II. 計画の効果・効率性	
④事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
④事業の効果 2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意 1) まちづくりに向けた機運がある。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意 2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意 3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
III. 計画の実現可能性	
⑥円滑な事業執行の環境 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○

[illegible]